



あさひまち



新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター 2015年10月 第13号



2014年度の旭町展示館の取り組み

—スウェーデン・ウプサラ大学での移動展示、
“Flowers in Japanese Art” (『花見展』) と同大学博物館の紹介を中心に—



新潟大学旭町学術資料展示館長 橋本 博文

昨年度は、漫画制作による佐渡金銀山の世界遺産登録推進運動と、ときめいとでの糸魚川と佐渡のジオパーク展示に取り組んだ。また、大学所蔵の石膏像や西洋画、歴史的実験機器などを活用した企画展を開催した。さらに、先進大学博物館の見学報告会を実施し、今後の館運営に資しようとした。以下に、補足的に海外での活動を紹介する。



花見展展示風景

■ スウェーデンでの移動博物館

昨年6月から7月にかけて、北欧スウェーデンのウプサラで、“Flowers in Japanese Art” (『花見展』) の「移動博物館」を実施した。それは、一昨年、当館の所在する旭町・西大畑地区界隈の5館の文化施設と連携して開催したスウェーデン現代アート展、“Wave from Sweden” の返礼の意味を込めて行ったものである。同展は、ウプサラを活動拠点とするアーティスト集団、Art Miners の横浜アンデパンダン展の巡回展に端を発したものであったが、和とアカデミックを基調とする新潟会場では一味違う別物となった。その際、コーディネーターを務めたカイサ・ハーグルンド (Kajsa Haglund) 氏らにその春に催した『花見展』の作品の一部を宿舍でご覧に入れた。すると、翌年の2014年にウプサラで日本の生け花を紹介する現代アートの特別展を企画していることを告げられた。そこで、その展示を補完すべく、日本の歴史的・伝統的な「花見」を浮世絵や日本画、植物画で示そうと思い、粘り強くカイサ氏と折衝を続けた。その結果、北欧最古で、ヨーロッパでも2番目に古い伝統のあるウプサラ大学の、しかも植物分類学の父とも言われるリンネ (Linné) の庭園の旧温室を会場に提供していただけることに



花見展会場となったリンネの旧温室

なった。見学者にはスウェーデンの植物園の中で日本のエキゾチックな「花見」のアートを楽しめたと好評であった。1か月の展示期間中に約2,600名の見学者があり、スウェーデンとの国際交流に貢献し、新潟大学の存在をアピールすることができた。

■ ウプサラ大学博物館

展示飾り付けの作業の前後に、ウプサラ大学の大学博物館の数館を覗く機会に恵まれた。ウプサラ大学には一つにまとまった総合博物館というものは無いが、歴史博物館、美術館、植物園、リンネ博物館、図書館など多岐にわたる施設がある。このうち、歴史博物館では、ノーベル賞受賞者を十数名輩出した歴史のある大学だけあって、大学史のコーナーが圧巻であった。最上階には、急峻な円形階段教室があり、その底に一見グランドピアノと見紛う解剖台が設置された旧解剖学講義室となっていた。本学医学部の前身、新潟医科大学の故中田瑞穂教授はヨーロッパ留学中、ウプサラ大学を訪問しているが、ごく短時間の滞在のためか、ここは見学していないようである。植物園には今回の生け花プラントアート展の会場となった新温室があり、野外展示として先の Art Miners の作家の作品群が植物とコラボしながら点在していた。リンネ・ガーデン内のリンネ博物館にはリンネの集めた標本や彼の愛用した家具調度などの民俗資料も展示されていた。進化学の研究所内には特別収蔵庫があり、リンネの弟子であるツンベリー (Thunberg, Carl Peter) の収集した貴重なタイプ標本などが保管されていた。その中には、江戸時代、彼が日本滞在時に箱根等で収集した植物標本が含まれており、『日本植物誌』(“Flora Japonica”, 1784) に掲載された原資料を特別に閲覧することができた。

「新潟のジオパーク展 糸魚川と佐渡の魅力」を開催して

新潟大学の旭町学術資料展示館サテライトミュージアム企画展示として、今回「新潟のジオパーク展 糸魚川と佐渡の魅力」を2014年7月12日から8月29日の期間で開催しました。この企画展では新潟県に存在する2つのジオパーク、「佐渡ジオパーク」「糸魚川ジオパーク」の魅力を伝えるとともに、新潟大学で行っている様々な取り組みを紹介するといった趣旨のもとで行いました。

今回の企画展は常設展示として糸魚川・佐渡のジオパークについての紹介を行ったポスターや、それに関連した新潟大学の活動報告、そして糸魚川で見られる翡翠や化石などを中心に展示しました。また、8月2日と8月23日の2日間に限り、化石レプリカ作りと学生によるふれあいトークを行いました。この2日間は図書館の職員の方々、ときめいとの方々の皆様、そして先生方のご支援を頂きながら学生中心に行いました。8月2日のふれあいトークは私が担当し、主に掲示してある糸魚川・佐渡のジオパークについてのポスターをわかりやすく説明しました。8月23日のふれあいトークを担当したのは地質科学科3年生の小松さんで、彼女は主に恐竜とジオパークの関係について

新潟大学 理学部地質科学科4年 箱岩 寛晶
で詳しく説明されていました。私が説明していて実感したことは、一般の皆様はジオパークという言葉は知っているものの実際はどういうものなのかを知らなかったということを感じ、まだまだジオパークというものが一般の方々に浸透していないのだなと感じました。しかし、こういった普及活動を地道に行っていくことは非常に重要なのだということをこの企画展を通して学びました。そのため、まずは一般の方々に「ジオパーク」という言葉が浸透していくことが非常に重要だと私は考えます。

最後に、この企画展を支えてくださった職員の皆様及び先生方に深く感謝の意をここに記します。



ふれあいトークの様子

「災害食～頻発する災害に備えよう～」を開催して

新潟大学 超域学院 久保田 真敏

1995年の阪神・淡路大震災、2004年の中越地震、2011年の東日本大震災など、過去20年間だけでも多くの尊い人命が地震により失われているだけでなく、それを上回る人々が長期間の避難所生活を余儀なくされてきた。そのような避難所生活のなかで「災害時の食」に注目が集まるようになり、さまざまな災害食が開発され販売されるようになった。本企画展では、新潟大学地域連携フードサイエンスセンターが編集した災害食関連の書籍、現在販売されている災害食などの展示を行い、来館者に災害食関連の最新の情報に触れて頂いた。



また11月15日(土)にはギャラリートークを開催し、災害時の食の現状や問題点など災害食に関する講演を行い、来館者の方々に最新の情報に直接触れて頂いた。さらに、発熱剤が同封されガスや水がなくても温

かい食事を提供できる災害食のセットや、水やお湯を加えて食べる災害食などを実際に試食して頂き、災害食の現状を体験して頂いた。試食して頂いた災害食の評判は大変良く、普段食べている食品と比べても遜色ないとの意見が多く得られた。一方、講演では個人ができる食に関する災害対策として、「ローリングストック」という考え方を紹介させて頂いた。このローリングストックとは普段食べている食品のなかで賞味期限が少し長めのものを多めに保管し、賞味期限が迫ったものから消費していき、消費した分を補充していくというものである。このローリングストックは各家庭で比較的簡単に取り組むことが可能な対策であるだけでなく、災害対策としても非常に有効な対策でもあり、来館者の方々の高い関心を得た。



「新潟師範学校と西洋画展」を企画して

明治美術学会会員 山浦 健夫

新潟大学教育学部の前身、新潟師範学校は明治7(1874)年に創設され、平成24(2014)年には創立140年というメモリアルイヤーを迎えました。

師範学校は戦前の義務教育だった小学校の教員(訓導)を養成するためにつくられた学校ですが、県内の文化活動にも大きく貢献しています。

特に美術の面ではその影響は大きくて、ここで西洋画(油彩画)を学んだ卒業生は、県内各地の小学校に赴任し、その地域に西洋画を紹介、広めました。

この展覧会では新潟師範学校で西洋画を教えた二人の教員、西垣維新(伴佐)と諸橋正範、卒業生16人の作品、資料を展示し、戦前の県内洋画界を俯瞰しようと試みました。

特にこの展示館は、新潟師範学校の同窓会館としてつくられ、唯一のこっている建物であり、ここでこの展覧会を催すことは意義あることと思いました。

今回の作品の展示はすべて画家の代表作とはいえませんが、観るべき作品は多かったと思います。

新潟大学所蔵の「池原康造像」は明治43(1910)年開学した新潟医学専門学校初代校長の肖像画です。絵にも1910年のサインがあり、開学の記念に描かれたの



でしょう。西垣は長岡市出身で西洋画の普及に貢献した小山正太郎の画塾不同舎で学んでいます。

卒業生16人は、小野末と岩瀬富士夫以外は新潟県内に住み教員を続けながら絵を描き続けました。戦前主な発表の舞台は県展(昭和5年から昭和18年まで新潟市で開かれた油彩画のみの公募展)でしたが、山田夏男「少年像」や斎藤鉄臣「山鳥」など県展特選受賞作品を展示できたのは幸運でした。

小野末は安井曾太郎の内弟子となり、戦後画家として活躍します。小野の展示された「早春妙高」は入門前の作品で、小野の才能とこれから絵でやっていこうという気持ちがうかがわれました。

最後になにかと力添えをいただいたスタッフの皆様と貴重な作品をお貸しいただいた所蔵者の皆様に改めて感謝申し上げます。

「歴史的実験機器展」を開催して

工学部機械システム工学科 大矢 誠

旭町学術資料展示館には、旧制高等学校時代からの古い実験機器が数多く所蔵・展示されており、専門家の方々から高い評価を得ています。



これら貴重な機器類を出来るだけ多くの皆様に紹介し、興味を持っていただけるよう、2014年12月4日(水)～2015年1月8日(水)の間、駅南キャンパス「ときめいと」において標記の機器展を開催しました。

今回の主な展示品は、旧制新潟高校心理学、および物理学関係の実験機器として、落下式瞬間露出器(タキストスコープ)、ガスイオン管、クーリッジ管、水銀蒸気整流器など、また、旧制長岡高等工業学校物理学関係の実験機器として、メートル原器、階段格子、直視分光器、マイクロメータ、キャリパ、象限電気計、ヘリオスタットなど、および食違い軸歯車、ネジ歯車、ウォームギヤ、遊星歯車機構などの歯車関係の機構模型です。

いづれも、それぞれの教育分野で現在も必要とされる機器ですが、数十年の技術進歩の結果、現在ではより簡便な新型の機器に替わったり、パソコンとディスプレイの組み合わせで間に合ったりしているのが現状のようです。それだけに、さまざまな工夫が凝らされた古い機器類は貴重でもあり、懐かしいその姿・形は私たちに多くのことを語りかけてくるような気がします。また、今回展示した特殊な歯車類は自動車などの大型機械に組み込まれる部品ですので、普段は一般の人の目に触れることは有りませんが、実物を見ることでその存在を認識していただけたのではないかと思います。

展示期間中、12月6日には人文学部の鈴木光太郎先生、12月12日には筆者が講師となり、それぞれの展示機器を対象としたギャラリートークも開催されました。実際に手にとることで歴史の重みを感じることができ、動作原理に関する理解を深められるなど、有意義な時間を過ごせたものと思います。旭町の展示館には、他にも多くの機器が保管・展示されています。是非一度ご覧ください。

「ギリシャ彫刻NEO -石膏像・模写・復元-」を企画して

新潟大学 教育学研究科教科教育専攻 美術教育専修2年 佐藤 詩織

新潟大学教育学部芸術環境講座による企画展「ギリシャ彫刻NEO -石膏像・模写・復元-」は2015年2月28日から5月10日に新潟大学旭町



展示の様子

学術資料展示館にて開催されました。展示では、デッサン用の石膏模像（以下、石膏像）やデッサンをはじめ、石膏像を利用して制作した現代アート作品、さらに、パルテノン神殿を装飾していた浮彫りを立体像として復元した作品などを紹介し、石膏像の新たな活用方法の可能性や、古典作品を模写、模倣することの今日的な意義を再考しました。

本展企画に関わることをきっかけに、気付かされるものが二つありました。

一つは芸術を学んでいるからこそ視野が狭くなっている部分があったことです。ギャラリートークでは来

場者の皆さまから、多くの意見を頂きました。例えば、人物像のポーズが意味することなど制作者側が思いもよらなかったような鋭い指摘もありました。私がこれまで先入観に捉われて鑑賞していたことを指摘されたようで、より広い視野で芸術を見る勉強になりました。

二つ目に模倣と本物の違いについてです。石膏像は世界に唯一の原作を模刻、複製したものです。貴重な美術品を日常的に観察できるように量産した石膏像は美術教育の教材として扱いやすく、学びとる部分も多くあります。しかし、石膏像と実物を比べると細やかな造形や素材感が異なります。ですが、私の中の古代ギリシャ彫刻のイメージは実物よりも身近な石膏像によって構築されていたことに気付かされました。この「模像」が実物以上のイメージを構築するというのは石膏像に限ったことではなく、印刷物や画像データ等によって日常に溢れていることでもあると思います。「本物」「本物の価値」とは何か、を考えさせられました。

開催にあたって、東京藝術大学解剖学研究室や旭町学術資料展示館、図書館の皆さまなど多くの方々からのご協力に、御礼申し上げます。

シンポジウム

ギリシャ彫刻NEO -石膏像・模写・復元-

開催日：2015年4月11日(土)

「石膏像のこれから—今日の美術における模写、模倣再考」

今日、どの美術系大学や学部にも、古代ギリシャ彫刻を模した石膏像が並んでいることと思います。本学教育学部芸術環境講座も例に洩れずです。かつて石膏デッサンは、美術系の大学入試において必須科目だったといっても過言ではありません。しかし、美術予備校では今も熱心に石膏デッサンの訓練が行われている一方、入学後のカリキュラムに組み込んでいる大学は多くはないようです。欧米では石膏像は美術史の教材としての役割も持っていますが、日本では、原作の一部分のみを再現した石膏像が、専ら実技教材として用いられてきました。そして今や石膏デッサンは以前ほど重視されなくなり、埃を被った姿がおなじみの光景になってしまいました。石膏像は今、曲がり角を迎えているといえるでしょう。石膏デッサンの意義は何なのか、また、デッサン教材以外に活用方法はないのだろうか。こうした観点から、企画展「ギリシャ彫刻NEO -石膏像・模写・復元-」とこのシンポジウムが開催されました。

企画展は、モノを通じて石膏像のこれまでと今後のあり方を問いかける試みであり、当シンポジウムでは諸分野の専門家が集い、それぞれの立場から石膏像を

新潟大学 教育学部芸術環境講座 田中 咲子

照射しました。パネリストは、石膏模像と石膏デッサンの歴史に造詣の深い、信州大学人文学部准教授の金井直氏、日本画家で本学教育学部准教授の永吉秀司氏、彫刻家で石膏像の縮小フィギュアの制作も手掛けられた東京藝術大学特任助教の本木諒氏、そして古代ギリシャ美術史を専門とする筆者の4名です。基調講演に続いて全体討論が行われ、学生からも活発に質問や意見が出されました。ある質問への回答として金井氏が言うておられた「石膏像は今や文化財である」との一言が深く印象に残りました。時代を映す文化財として研究が求められると同時に、歴史家や芸術家をはじめ分野横断的なアプローチが益々必要になることを実感しました。



友の会バス見学会に参加して

旭町学術資料展示館 友の会 大塚 智恵子

2014年11月16日(日)全国5箇所で開催されている「発掘された日本列島2014」の展示会場のうちの1つである長野市立博物館での見学をメインに、米持天神第1号墳にて長野市周辺の遺跡などを巡るバス旅行に参加しました。今回の「発掘された日本列島」の展示は、平成26年5月から平成27年3月迄かけて各開催館ごとに異なる重要文化財の展示がされ、日本を代表する発掘調査成果の展示だそうです。



ここ、長野市立博物館は後谷遺跡（埼玉県桶川市、縄文時代後期）と明ヶ島古墳群（静岡県磐田市、古墳時代中期）の展示でした。火焰型土器や勾玉、三角縁神獣鏡はもちろん、印象に残ったのは後谷遺跡のミニズク土偶と、今城塚古墳の祭祀用のきれいな家型埴輪そして円筒埴輪の数の多さでした。土地柄でしょうか、新潟の土器とは違うと感じました。

また、奈良のキトラ古墳の展示には同寸大の模型があり、内部天井の太陽と月と星の軌道の天文図、

壁面の玄武・朱雀・十二支像の一部を確認できましたが、この内部空間の広さは貴重な体感でした。

その後、千曲市の森將軍塚古墳館から須坂市立博物館のメイン展示室などを見学し、次に向かう途中、須坂インターを降りて臥竜公園ちかくの米持天神第1号墳に、橋本先生が急に案内して下さいました。プランにはない箇所ですが、なんだかホッと小さな積石塚の古墳です。上に登り端をうづむいて歩む先生は、すぐに埴輪のカケラを見つけれたらしく、夕暮れをバックに少年時代を彷彿させる一コマでした。

そこから飯綱町のいいづな歴史ふれあい館を見学し北陸道を通り帰路に着きましたが、一週間遅れていれば地震で高速道封鎖の憂き目に会う所でした。短時間では見きれないほどでしたが、古に想いをはせられ貴重な品々を見学したり、体験させていただき感謝申し上げます。



庚申塚古墳にて

体験教室 Experience Classroom

開催日：2014年8月10日(日)

「せっけん粘土で火焰型土器をつくろう」

旭町学術資料展示館 清水 美和

2014年8月10日(日)、当館で展示している長岡市石倉遺跡から出土した縄文時代中期のものとする火焰型土器のミニチュアを石けん粘土で作るという体験イベントを開催し、低学年を中心に小学生10人に参加いただきました。普段ガラスケース越しに決まった方向から見ている火焰型土器をすみずみまでじっくり観察して、どんな文様がついているのか、その文様をどのようにしてつけたのか、土器はどんな形をしているのかを考えて理解したうえで昔の人たちが手で作っていたことを実感してもらいたいという企画です。本来の作り方である粘土ひもを作ってから成形していく方法で制作すると、子供たちの小さな手ではこのミニチュアの大きさで作ることは難しいので、指で粘土の塊にくぼみをつけて立ち上がりを作り、へらや竹ぐしなどを使って口縁部や頸部・胴部の文様を刻みつけ、



取り分けておいた粘土で作った鶏頭冠把手をくっつけたりして、できるだけ実物に近づけるようにしました。ただ、実際に制作をはじめると、小学校低学年のお子さんたちの手にとっては石けん粘土が普段使う粘土よりも硬いので力があるとのことで、そこを補助しながら粘土の成形をすることになりました。見れば見るほど緻密で複雑な文様に、かなり苦戦することになりました。石けん粘土は粘土自体を着色し、それぞれの好みの色にしたため、色とりどりの火焰型土器が完成しました。

石けん粘土は名前の通り石けんであるため、自由に着色することができ、しばらく乾燥させると固まり、石けんとしても使うことができる楽しい素材です。今回このような体験教室に参加していただくことで、小学生やそのご家族に昔の人々のものづくりや交流について親しみや新たな興味をもっていただける機会のひとつになったのではないかと思います。展示品を利用者の学びに活かしていくことも、展示施設にとっては大切な活動だと実感しました。

大学博物館見学報告会

開催日：2014年7月7日(月)

新しい知見を得て展示館の活動・運営に生かすため、平成26年1月～2月にかけて展示館運営委員6名が全国の大学博物館へ見学出張を行いました。場所は北海道大学、名古屋大学、京都大学、広島大学の総合博物館、愛媛大学ミュージアムなど総合大学の博物館と、愛知県立芸術大学、東京海洋大学、東京農工大学など専門大学における分野の博物館、また県立大学と県立博物館が共同している例として兵庫県立人と自然の博物館の計9機関です。

見学した内容を大学関係者や地域の皆様と共有するため、平成26年7月7日に新潟大学中央図書館ライブラリーホールにおいて「大学博物館見学報告会」を開

催しました。見学出張した委員の内4名の教員から写真などを示しながら感想を交えた報告があり、また展示館長と博物館学の教員2名がミニレクチャーを行いました。



参加者は博物館学を学ぶ学生や一般市民130名で、参加者からは「博物館は自己完結の展示だけではなく、幅広い人々とのコミュニケーションが大切なのだと思った。」との感想もあり、博物館活動への理解を深めていただく場となりました。

出版物

Publication

マンガ「ぼくらのゴールデンロード 江戸編」発行

発行：2014年7月

佐渡市の市民団体「佐渡を世界遺産にする会」と共同で佐渡金銀山の歴史をわかりやすく紹介する漫画「ぼくらのゴールデンロード 江戸編」を発行しました。



旭町学術資料展示館は佐渡金銀山の世界遺産登録に向けた活動に積極的に関わってきました。若い世代に興味と理解を持ってもらう切っ掛けとして漫画に注目し、橋本展示館長の教え子であり、2010年に「にいがたマンガ大賞」を受賞した、

さわのりえこさんに漫画制作を依頼したものです。

小学生の男の子が佐渡伝説のタヌキのキャラクターに導かれて、江戸時代の佐渡金銀山や金にまつわる場所へ行き、金をつくる方法を学んでいきます。金をつくる工程（採掘・選鉱・製錬）が図解でわかりやすく解説されており、内容は佐渡が工業都市として栄えた歴史や当時の町の様子、海外に与えた影響にまで及んでいます。殆どのページの下に書かれている「タヌキの独り言」というミニ知識もあり、読み応え十分なものとなっています。

この冊子は新潟県内の小中学校や来館者に配布しました。

出版物

Publication

「中田瑞穂俳句絵かるた」作成

発行：2015年3月

旭町学術資料展示館では平成25年度に「脳外科医・中田瑞穂生誕120周年展」を開催するなど中田先生に関わる展示を行ってきました。中田先生は新潟大学に日本初の脳神経外科を設立した研究者・教育者であり、また一方、不如帰派の俳人として文人の面でもご活躍されました。

中田先生のご長男が三周忌に配られた「俳句いろは歌留多」を元に、新潟大学で日本画を学ぶ学生が絵札を描き、この度「中田瑞穂俳句絵かるた」を発行する運びとなりました。

昭和53年7月に作られた「俳句いろは歌留多」は読み札（揮毫・活字の2種）で作られており、挨拶文には『昭和24年3月号のまはぎに虚子先生の俳句いろはかるたにならって、虚子先生選に通ったものの中から47句を

選んだとあります。』とあります。また昭和47年2月の日記に『俳句いろはかるた揮毫茂野君に呈す大歓』とある軸の書体を生かしたとのこと。今回作成のかるたの読み札は揮毫・活字を両面に印刷しました。



47枚の絵札は教育学部の永吉秀司先生が指導し、大学院教育学研究科修士1年（当時）の小柳悠未さんが一人で描きました。句の解釈を有識者に聞きながら日本画の手法で描かれた原画は、色とりどりに美しく中田先生の俳句とともに鑑賞いただけます。平成27年度には展示館において「中田瑞穂俳句絵かるた原画展」を行う予定です。

平成26年度あさひまち展示館活動記録

あさひまち展示館企画展示

開催期間	タイトル	展示室	担当
2014.4.16~6.1	佐渡金銀山に関わる絵巻・浮世絵・模型展	企画展示室	人文学部
2014.7.2~8.24	災害の記憶	企画展示室	展示館
2014.7.9~8.24	平和を考える	企画展示室	人文学部
2014.9.3~9.21	村の肖像Ⅱ・展	企画展示室	人文学部
2014.9.18~10.12	地学実験A実習発表展	2Fロビー	理学部
2014.10.22~11.27	災害食 ー頻発する災害に備えようー	企画展示室	農学部
2014.12.3 ~2015.1.23	新潟師範学校と西洋画展 ー新潟師範学校創立140周年記念ー	企画展示室	展示館
2015.2.28~5.10	ギリシャ彫刻NEO ー石膏像・模写・復元ー	企画展示室	教育学部

あさひまち展示館 サテライト・ミュージアム 駅南キャンパス「ときめいと」企画展示

開催期間	タイトル	担当
2014.7.12~8.29	新潟のジオパーク展 ー糸川川と佐渡の魅力ー	理学部
2014.12.4 ~2015.1.8	歴史の実験機器展	工学部

友の会行事

開催日	テーマ	講師
2014.6.1	第12回 新潟大学あさひまち展示館友の会総会	
2014.11.16	バス見学会 (長野市立博物館・森將軍塚古墳館など)	橋本博文館長

フォーラム・講演会

開催日	タイトル	講師	会場
2014.6.1	第12回 新潟大学あさひまち展示館友の会総会 記念講演会「境界と魔除けの民俗」	飯島康夫人文学部准教授	ときめいと
2014.7.7	「新しい博物館・美術館をめざして」ー平成26年度 旭町学術資料展示館 大学博物館見学報告会ー	池田哲夫人文学部教授・橋本博文人文学部教授・郷見教育学部教授・松岡篤理学部教授・柴田幹夫国際センター准教授・野村修一名誉教授（歯学部）	中央図書館B棟1階 ライブラリーホール
2014.9.15	報告会「Sweden 見聞録」	橋本博文館長・松山雄二（旧齋藤家別邸館長）・土沼直亮（旧齋藤家別邸ガーデンディレクター）	ときめいと

ギャラリートーク・体験教室

開催日	タイトル	講師	関連企画
2014.4.26	ギャラリートーク	橋本博文館長	佐渡金銀山に関わる絵巻・浮世絵・模型展
2014.11.15	ギャラリートーク・災害食試食会	久保田真敏超域学術院助教・大学院自然科学研究科学生	災害食 ー頻発する災害に備えようー
2014.12.6,12.12	ギャラリートーク	鈴木光太郎人文学部教授・大矢誠工学部准教授	歴史の実験機器展
2014.12.14,21 2015.1.11	ギャラリートーク・ギャラリーコンサート	山浦健夫（明治美術学会会員）・教育学部学生・大学院教育研究科学生	新潟師範学校と西洋画展 ー新潟師範学校創立140周年記念ー
2015.3.14	ギャラリートーク	田中咲子教育学部准教授	ギリシャ彫刻 NEO ー石膏像・模写・復元ー

移動博物館

開催期間	タイトル	会場	見学者数
2014.6.10~7.11	Flowers in Japanese Art	スウェーデン ウプサラ大学	2,600人

あさひまち展示館入館状況

◆入館者数 (2014年4月-2015年3月)

月	学 内		学 外			計
	学生	教職員	学生	教員研究者	一般	
4月	12	21	3	17	120	173
5月	15	15	25	32	236	323
6月	7	7	6	9	113	142
7月	138	26	72	23	207	466
8月	65	18	229	28	373	713
9月	31	25	6	52	261	375
10月	21	23	79	23	220	366
11月	25	23	12	26	129	215
12月	23	30	2	37	173	265
2015年1月	13	26	8	43	147	237
2月	24	24	3	28	179	258
3月	23	20	5	22	257	327
計	397	258	450	340	2,415	3,860
		655			3,205	

※開館日：水・木・金・土・日曜日の週5日間

◆資料受入リスト

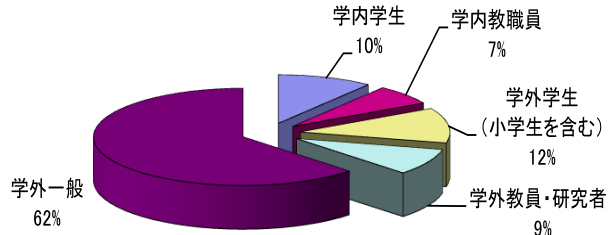
資料名	説明		
立花大全	版本	2014年12月1日	購入
花術目録伝	筆写本	2014年12月1日	購入
本間翠峯 山水幅	絵画	2015年3月10日	購入

新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター

あさひまち

第 13 号

- ◆ISSN 2185-7431
- ◆発行年月日/2015年10月15日
- ◆編集・発行/〒951-8122 新潟市中央区旭町通2番町746
新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館
- ◆印刷/共立印刷株式会社



◆団体入館者

日付	団体名	人数
2014年4月27日	新潟大学考古学研究会	8
2014年5月8日	三条市立第一中学校2年生	6
2014年5月10日	ガールスカウト新潟第8団	8
2014年5月24日	新潟市中央区まちあるき「えんでこ」	7
2014年7月2日	坂井輪地域学のみなさま	15
2014年9月14日	福島県大沼郡金山町のみなさま	23
2014年10月4日	大畑少年センター	33
2014年10月9日	新発田市本丸中学校2年生	12

◆講義・実習等での活用

日付	講義・実習名	受講者数
2014年1学期	平和を考えるA/副専攻	170
2014年7月20日	考古学概説A/人文学部	31
2014年7月13日	地学実験A/理学部	19
2014年10月26日	心理学実験1/放送大学面接授業	20
通 年	博物館見学実習	50

編集後記

2014年は新潟地震から50年目、新潟大学にとっては教育学部の前身である官立新潟師範学校創立から140年目にあたり、このことを改めて振り返り後世に伝えたいと、「温故知新」の思いで企画展を開催しました。かつて若者たちの学びの地であった常盤ヶ岡にある当館を、今は多様な世代の様々な立場のかたに利用していただいています。今後も近隣の展示施設と連携を図りながら、大学博物館として発信できることを模索したいと考えています。

